

人と地域と医療をつなぐ

Vol.68
2025年5月発行



地域連携室だより

Topics.1 豊見城中央病院、新体制がスタート！

2025年4月より、豊見城中央病院は新たな運営体制となりました。

これまで病院運営の中心を担っていた外間力人院長(整形外科)に代わり、新たに比嘉盛丈院長(糖尿病・内分泌内科)、新地明香副院長(内科・循環器内科)が就任いたしました。

今後も、当院(高度急性期)および豊見城中央病院(回復期病棟・地域包括ケア病棟・緩和ケア病棟)との密な連携のもと、それぞれの機能を最大限に活かしながら、より良い医療の提供に努めてまいります。



院長 比嘉 盛丈
(糖尿病・内分泌内科)

副院長 新地 明香
(内科)

Topics.2 第5回 沖縄CART研究会を開催！

2025年4月18日(金)、第5回沖縄CART研究会を開催いたしました。

第1部では、当院の医師による症例報告が行われました。外科の花城清俊医師からは「高度心機能低下を伴う難治性腹水の症例」について、産婦人科の大城大介医師からは「婦人科がんにおける改良型CART(KM-CART)の有用性」について、いずれも治療成績を含めた現状報告を行いました。

続く第2部では、日本CART研究会事務局長の松崎圭祐先生をお招きし、「安全で効果的なCART施行のポイントと最新の展開」と題して特別講演をいただきました。

KM-CARTは2021年度版「腹膜播種診療ガイドライン」にも収載されており、導入施設も年々増加。現在では消化器がんにとどまらず、婦人科がん、泌尿器がんなど、幅広いがん腫に対応しています。



▲第5回沖縄CART研究会のようす

CARTとは？

CART(腹水濾過濃縮再静注法)は、腹腔内から取り出した腹水をフィルターで濾過・濃縮し、有用な蛋白成分を静脈内に戻す治療法です。1981年に保険適用されました。しかし、がん性腹水に対してはフィルターの目詰まりや炎症物質の放出による高熱・ショックなどのリスクが高く、一時は臨床現場での使用が減少していました。この課題を克服すべく、松崎圭祐先生が2008年に開発したのが「KM-CART」です。

改良型CART “KM-CART”とは

濾過器を内圧式から外圧式に変更したこと、定圧での濾過および洗浄が可能となり、濃厚で血性のがん性腹水にも対応できるようになりました。これにより、腹水中のアルブミンやグロブリンなどの有用成分を効率的に回収して再静注することで、栄養補給や腹水の再貯留抑制が可能になりました。さらに、回収されたがん細胞は、免疫細胞療法や抗がん剤感受性試験などの研究にも活用されています。



新年度が始まり、日々忙しくも充実した日々を過ごしております。「地域連携だより」も、企画広報課(今年度より「コミュニケーションデザイン室」と協働で原稿制作を進めるようになって1年が経過しました。広報のプロと連携することで、デザインの統一や、より見やすく、わかりやすい情報提供を心がけています。本年度も、連携医療機関の皆さんへ、当法人の取り組みや最新情報をお届けしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。
(地域連携室 比嘉)



社会医療法人友愛会
友愛医療センター

沖縄県豊見城市字与根50-5
TEL.098-850-3811(代)

地域連携室

TEL.098-852-2575 FAX.098-852-2152

【受付時間】平日 8:30~17:00/土曜日 8:00~12:00



▲医療従事者
専用ページ



▲外来担当医表



▲受診予約
申込書